

# AAF NEWS

VOL.26

2021  
AUTUMN

ご協力いただいたみなさまにAAFの活動をお知らせします

## CONTENTS

COLUMN —AAFメンバーの現地での体験から

ネパールへの旅

フィリムで感じたこと

INFORMATION

AAF PROFILE

AAF Asian Architecture Friendship



学校閉鎖が解除され、9月に授業が再開されたブッダ・スクール 待ちに待った授業に集中する生徒たち

## NEWS

ブッダ・スクールで授業が再開されています

>次ページに詳細を掲載

# NEWS

## ブッダ・スクールで授業が再開されています

ネパールで4月半ば以降に新型コロナウイルスの感染者が急激に増大したことに伴い、ブッダ・スクールは5月9日より閉鎖されていました。その後徐々に減少傾向に転じ、9月には感染者数はピーク時の10分の1程度にまで落ち着きました。ワクチン接種はネパール全国でまだ20%を超える程度ですが、ブッダ・スクールでも教師はワクチン接種を終え、9月12日より授業が再開されています。

10年生修了時に実施されるSEE (Secondary Education Examination／中等教育修了試験)は、昨年はコロナ禍で中止されましたが、今年は無事行われ、ブッダ・スクールから受験した45名は全員、上の学校へ進学できる成績を修めました。学校閉鎖中でも、自主学習や教師の訪問授業などの成果が出たと言ってよいでしょう。

また学校建設については、生徒数の増加により不足していた男子トイレの増築計画をティハール（秋のお祭り）終了後の11月下旬頃よりスタートする予定です。



生徒たちが戻ってきたブッダ・スクール

ブッダ・スクールを卒業し、日本ネパール女性教育協会の支援を受けて教師となったサビナ先生とゴマ先生は、松浦育英基金＊の援助により現在母校のブッダ・スクールで教師を続けています。サビナ先生(写真左)は社会と理科、ゴマ先生(同右)は英語を小学生に教えています。



サビナ先生とゴマ先生

\*1970年に日本人で初めてエベレスト登頂に成功した故松浦輝夫氏がネパールへの恩返しのため2003年に創設したネパールの教育のための基金。生徒や教師の資金援助を行っている。

# COLUMN

—AAFメンバーの現地での体験から

## ネパールへの旅

浦上 陽子

私がAAFに加入したのは今から8年前の2013年。社会人になって3年目の時でした。

高校生の時から漠然と「開発途上国に学校を建てたい」という夢がありました。技術者として誰かの役に立ちたい、という想いから建設会社に就職した経緯があります。偶然AAFの存在を知り、飛びつくように加入了しました。

2016年に現地に赴く機会があり、支援の実現の困難さを実感することが出来ました。ブッダ・スクールへの道は丸一日車に揺られ、2日間毎日9時間歩くというとてもハードなものでした。大地震（2015年4月25日発生）と雨の影響により所々で土砂崩れが起きており、道なき道を歩きました。岩山を超えて、足のすくむような橋を何本も渡り、それ違うロバ・牛・ヤギに蹴落とされないよう気を付け、まさにサバイバルでした。非日常すぎて疲れ果てていた時に目の前に広がった、写真で見慣れた学校の風景に感動したことは今でも忘れません。



ネパール中部大地震1年後 土砂崩れの後の道なき道を行く

旅の目的は竣工検査、地震で壊れた建物調査、今後の工事の打合せでした。竣工検査では、工事中の写真が撮影できていない箇所もあり、目視でしか判断できず、指示通り作業できているかは施工報告書を提出してもらいました。地震で破損した屋根・壁の修理工事の話し合いでは、こちらは2ヶ月と提示しても現地の職人は1年かかると主張します。小さな建物を作るだけでも人材の確保、材料の調達、材料の運搬方法など日本では考えられない項目にまで時間とお金がかります。例えば日本ではトラックですぐ搬入できますが、車道のないこの地域ではヘリコプターを使うか人力で運ぶかの二択になり、物価上昇の影響を受けた燃料価格と人件費を比較しなければなりません。そして現地の情報はどこまで信頼できるものか、という話にも及び、調達した資金を無駄に使わないよう慎重に検討していく事が重要です。

ネパールの子供達が熱心に勉強している姿には、心打たれるものがありました。カメラを向けると恥ずかしそうに俯

# COLUMN

—AAFメンバーの現地での体験から



ブッダ・スクールの寄宿舎で生徒たちと

いていましたが、目がキラキラしていて、これから沢山の夢を叶えてあげられるよう支援していきたいと思いました。学校の先生方も国相手に校舎の増設を訴えるなど大変熱心に活動されているようです。今よりさらに良い環境を整備していくよう微力ながら励んでいこうと思います。

## フィリムで感じたこと

潮崎 有弘

私が、当活動の副リーダーである職場の先輩についてフィリムに行ったのは2017年9月です。以前からカレンダー募金はしていましたが、現地がどんなところなのか、子供達がどんな生活をしているのか見てみたいとぼんやり考えていました。その願いはAAFへの入会を条件として実現することとなり、気が付くと爽やかな秋晴れの下、通訳兼ガイド1人、ポーター2人と先輩、私の5人で登山口の小さな村を出発していました。1日8時間、丸2日の登山です。ポーターは大阪の協力者である今西組さんから寄付頂いた作業着30着を背負い、私は400人の子供達に配る鉛筆（自腹購入）を担ぎました。六甲山をたまに登る私にはさほど険しい山ではありませんでしたが、2015年の大地震で山道はあちこち崩れ、山に暮らす村人へ食糧や物資を運ぶロバ隊の'落とし物'が散乱し、歩いても歩いても景色はあまり変わらないという独特な状況が結構な疲労となりました。



フィリムへの街道 同じような景色が続く

この登山道はフィリムより更に奥地へと進むと8000m級のヒマラヤを望む山に通じるため欧米人も多く訪れ、1時間ほど歩くごとに小さな集落と登山客相手の山小屋があり、食事や宿泊ができます。先輩によると近年重機により道は拡幅され、新しい山小屋も次々と建設されAAFが始まった頃とは随分と様変わりしているようです。そんな街道沿いの店で2日目の昼食をとっていると一人の若者が先輩に話しかけてきて「あなたを知っています。私はあなたが建ててくれた学校を卒業し今はカトマンズの大学で勉強しています」と話しました。さり気ない会話でしたがこの活動の意義をリアルに感じた瞬間でした。その後また'落とし物'に注意し集落の子供達の無邪気な光景に心洗われながら歩き、夕方5時頃学校近くの丘に着きました。風に揺れる草木の向こうに写真で見た校舎が見え、校庭でスポーツに興じる生徒達の歓声が聞こえました。丘を下り学校に近付くと彼らは花束を持って校門に整列し拍手で私達を迎えてくれました。「毎回こうして迎えてくれるんや」と先輩。活動の意義を感じた2回目です。



ブッダ・スクールの教室で生徒たち一人一人に鉛筆を配る

フィリムでは2泊し、校舎の現況確認や次工事について現地の住民と打合せをしました。石積みの校舎群は美しく、授業を受ける子供達のひたむきな姿に心奪われました。寄宿舎でも彼らは2段ベッドの枕元に教科書をおいて宿題をしていましたが、一方で生徒数が増えて寄宿舎が足りず窓もないトタン小屋で寝起きする子供達もいて、なんとも胸がつきました。また持参した鉛筆は先生のご提案で授業中の教室にお邪魔し子供達に配りました。

帰国し年末のカレンダーキャンペーンのため学生時代の友人や職場の同僚に協力を呼びかけましたが、意外に好感触で多くの賛同を頂きました。いつも冗談ばかり言っている友人が「すごいな、こういうのが生きるってことだよな」と言い出したのには驚きました。私も含め各人、日々のことで手一杯だけちょっとしたきっかけでこんな風に思いが繋がっていくんだと気付かされました。これからも色々な発見の中で、子供達のための活動を続けたいと思います。

# AAF PROFILE

## AAF (Asian Architecture Friendship)

2000年、竹中工務店大阪本店設計部の有志を中心に設立した民間ボランティア団体です。

建築を専門とする職能を活かして、ネパールのフィリムでの学校建設(2003年竣工)を始め、アジア地域の開発途上国における学校等の施設建設支援を中心とする活動を行っています。

設立以来15年間任意団体として活動した後、2015年4月に特定非営利活動法人の認証を取得し、現在に至っています。

### AAFの活動と実績

1999.10 竹中工務店設計部有志を中心としたメンバーでネパールを視察

1999.12 ネパールのヒマラヤ山麓の村、フィリムを調査

2000.03 ボランティア団体AAF(Asian Architecture Friendship)を設立、ネパールのフィリムにて学校建設計画をスタート

2001.10 草の根無償資金の供与を受け、フィリムの学校が着工

2003.04 フィリムの学校 'Buddha Primary&Secondary School (ブッダ・スクール)' 竣工

2005.04 「ヒマラヤに学校を建てよう! 建築家のボランティア奮闘記(彰国社)」を出版

2005.07 「AAFのNGO活動—ヒマラヤの学校建設—」展を開催(ギャラリーエーケワード/東京)

2006.04 こども環境学会賞活動奨励賞受賞

2006.08 日本ネパール女性教育協会との提携によるカニヤキャンパス・ポカラ「さくら寮」竣工

2006.10 「パラレル・ニッポン 現代日本建築展1996-2006」(東京写真美術館)に出演

2007.05 日本建築学会賞(業績)受賞

2008.08 フィリムのブッダ・スクール、ポカラのさくら寮がイタリアの建築雑誌'domus'に掲載

2008.08~ 国際巡回展「地球にやさしい建築展」に出演

2009.05 ブッダ・スクールの2期工事である寄宿舎(3棟)と食堂棟、便所棟が竣工

2009.10 ブッダ・スクールが第11回国際石材建築賞を受賞

2010.03 「ヒマラヤの学校建設その後—AAFのNGO活動展vol.2」を開催(ギャラリーエーケワード/東京)

2011.09 UIA2011東京大会第24回世界建築会議にてフィリムの学校プロジェクトを発表

2011.12 ブッダ・スクールに4棟目の寄宿舎が竣工

2012.09 ブッダ・スクールの3期工事(厨房棟)が着工

2013.02 厨房棟が竣工

2013.12 引き続き教員宿舎が着工

2015.02 「ヒマラヤの学校建設15年の軌跡—AAFのNGO活動展vol.3」を開催(ギャラリーエーケワード/東京)

2015.04 AAFが特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を取得

2015.04 ネパール中部で発生した大地震により、フィリムのブッダ・スクールが被災 寄宿舎3棟と工事中の教員宿舎の壁が崩れ、修復不能な被害を受ける

2015.09 ブッダ・スクールの被災状況について現地調査を実施

2016.01 地震で被災した寄宿舎の再建工事に着手

2016.04 1棟目の寄宿舎の再建工事が完了

2016.07 自由都市・埠 平和貢献賞受賞

2016.07 2棟目の寄宿舎の再建工事が完了

2017.03 3棟目の寄宿舎の再建工事が完了

2018.09 5棟目の寄宿舎が竣工

2019.06 地震で被災した便所棟の再建工事が完了

ブッダ・スクールの震災復興事業が終了する

2021.01 ブッダ・スクールでコンピュータールーム棟の建築工事が完了

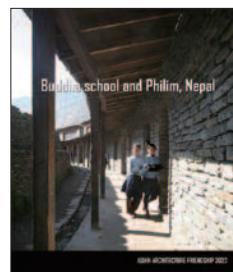
# INFORMATION

## AAFの2022年カレンダーができました

2022年のAAFカレンダーができました。

ご希望の方は1口1000円の寄付+送料(下記参照)をお願いいたします。寄付1口につき、カレンダーを1部お送りさせていただきます。

例年卓上型のCDケース入りのカレンダーをお届けしていましたが、環境に配慮しプラスチックごみを少しでも削減するため、今年からはカレンダー本体のみのご提供とさせていただきます。すでに昨年以前のAAFカレンダーをお持ちの方はケースを再利用していただくよう、お願いいいたします。ケースをお持ちでない方は申込時に「ケース希望」とお知らせいただければお送りさせていただきます。どうぞ趣旨をご理解の上、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



サイズ11.9cm×13.8cm



>>> 申込方法①: AAF公式サイトのカレンダー  
申込ページ(下記URLもしくは右のQRコード)から  
お申込みください

<https://aafjpn.org/contribution/calendar2022/mousikomi>

>>> 申込方法②: ゆうちょ銀行払取扱票の通信欄に「カレンダー希望」と記入の上、寄付金(1口1000円)と送料をお振込みください(記入がない場合は通常の寄付扱いとなります)

※送料/1~2口:200円 3~5口:250円 6~10口:350円  
11口以上:400円 ケース希望の場合は1個につき+50円

## AAFの賛助会員を募集しています

### >>> 入会方法

ゆうちょ銀行払取扱票の通信欄に「入会希望」とご記入の上、郵便振替にて下記の会費をお振込ください

### >>> 会費

一般賛助会員: 1口 5,000円(年額)

法人賛助会員: 1口50,000円(年額)

## AAFへの郵便振替は下記口座にお願いいたします

>>> 口座番号: 00910-0-64819

>>> 加入者名: AAF基金

※払取扱票には住所・氏名・電話番号を必ず記入してください

※電子メールをご利用可能な方はE-mailアドレスを併記ください

※個人情報はAAF基金運用の目的以外で使用いたしません

## 編集後記

簡単に高度な治療を受けることのできない山間部で感染が広まると…と心配でしたが、学校が再開されるまでになりほっとしました。T

